

# 2019年3月期 第4四半期 決算説明会資料

2019年5月7日@ステーションコンファレンス東京

7741.T [ADR: HOCOPY US] HOYA株式会社

# 1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括と今後の展望

5. 質疑応答

# 業績概況

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益	1,359	1,415	+56	+4%
税引前四半期利益	262	314	+52	+20%
四半期利益	195	292	+97	+50%
cf. 通常の営業活動 からの利益	330	351	+20	+6%

# 為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,427	1,415	-12	+68	+5%
税引前四半期利益	312	314	+2	+50	+19%
四半期利益	290	292	+2	+94	+48%

主要通貨	(A)Q4 FY17 レート	(B)Q4 FY18 レート	変動率
US\$	¥107.47	¥110.27	-2.6%(円安)
EURO	¥132.29	¥125.27	+5.3%(円高)
BAHT	¥3.43	¥3.50	-2.0%(円安)

# 特殊要因について

## 包括利益計算書

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY
売上収益	1,359	1,415	+56
金融収益	4	7	+3
その他の収益	7	14	+6
収益合計	1,371	1,436	+65
費用合計	1,109	1,122	+13
税引前四半期利益	262	314	+52

1

買収した会社に係る統廃合などの一時費用が増加したものの、前年同期に計上した海外子会社の減損損失に相当するものがなかったため、費用合計は前年と同水準となった。

1

# ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	919	963	+44	+5%
税引前四半期利益	109	158	+49	+45%
cf.通常の営業活動 からの利益	181	181	-0	-0%
cf. 同利益率	19.7%	18.8%	-0.9pt	

\*外部売上の数値

# ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

## Q4 FY18業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	980	963	-17	+61	+7%
税引前四半期利益	160	158	-2	+51	+47%
cf.通常の営業活動 からの利益	181	181	-0	+0	+0%

\*外部売上の数値

# 情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	426	437	+11	+3%
税引前四半期利益	157	184	+27	+17%
cf.通常の営業活動 からの利益	161	183	+22	+14%
cf. 同利益率	37.7%	41.8%	+4.1pt	

\*外部売上の数値

# 情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

## Q4 FY18業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	432	437	+5	+6	+1%
税引前四半期利益	182	184	+2	+25	+16%
cf.通常の営業活動 からの利益	181	183	+2	+20	+13%

\*外部売上の数値

# サブセグメント別業績

ヘルスケア関連製品 売上収益  
メガネレンズ/コンタクトレンズ

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	691	720	+29	+4%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	733	720	+42	+6%

\*外部売上の数値

# サブセグメント別業績

## メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	227	242	+15	+7%

## 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	247	242	+20	+9%

\*外部売上の数値

# サブセグメント別業績

## エレクトロニクス関連 マスク& blanks / HDD基板

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	319	348	+30	+9%

### 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	344	348	+25	+8%

\*外部売上の数値

# サブセグメント別業績

映像関連製品  
カメラレンズほか

(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	108	89	-19	-18%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	89	89	-19	-18%

\*外部売上の数値

# 貸借対照表

(億円)	Q3 FY18	Q4 FY18	QoQ	
非流動資産	2,348	2,558	+210	1
流動資産	4,850	5,081	+231	2
資本	5,966	6,277	+311	
非流動負債	156	244	+89	
流動負債	1,075	1,118	+42	
合計	7,198	7,639	+442	

1 Mid Labs/Fritz Ruck等の買収に伴い、のれん及び無形資産が増加した（+182億円）

2 現金及び現金同等物 +211億円  
その他の短期金融資産 +20億円

# キャッシュフロー計算書

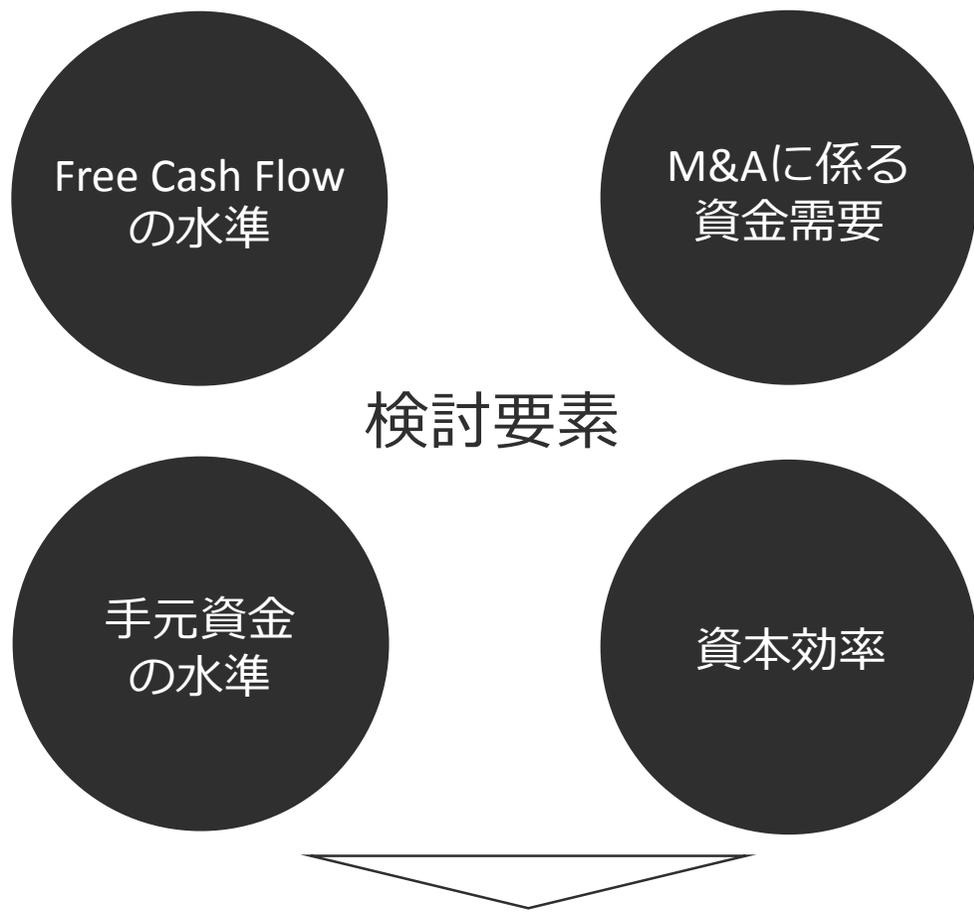
(億円)	Q4 FY17	Q4 FY18	YoY
営業活動によるCF	395	466	+71
投資活動によるCF	-34	-263	-229
財務活動によるCF	-97	2	+98
現金及び現金同等物 期末残高	2,458	2,934	+476

1

主に眼内レンズにおける製品ポートフォリオ拡大のための買収（Mid Labs/Fritz Ruck）により投資活動による支出が増加

# 株主還元について

---



600億円を取得上限とする自社株買いを決定  
取得後は消却

1. 決算概要

**2. 情報・通信事業概況** [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

3. ライフケア事業概況

4. 総括と今後の展望

5. 質疑応答

# 情報・通信事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)

-3%

HDDガラス基板

+20%

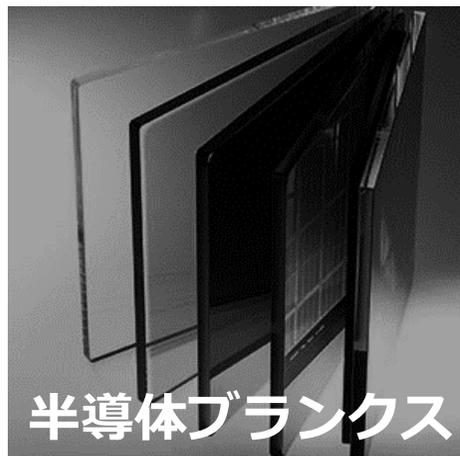
マスク&ブランク  
(半導体/FPD)

-7%

映像

+4%

# 製品別概況

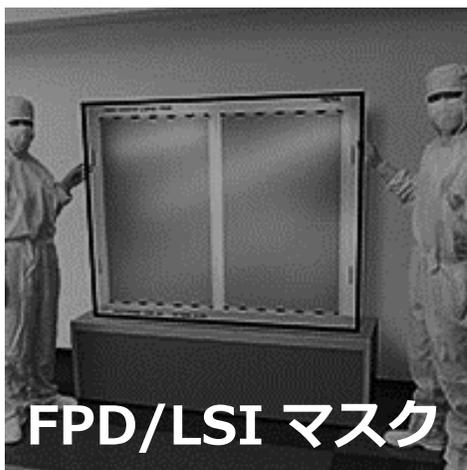


## 足元

成長が続くEUV用途の売上比率は26%に。  
Opticalも7nm量産用途を中心に売上伸張

## 今後

EUVの量産用途、次世代ノード開発用途を中  
心に売上拡大を目指す



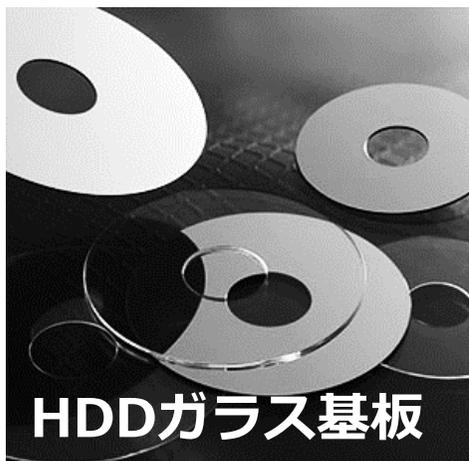
## 足元

主に日本市場におけるFPD需要の減少により、  
減収

## 今後

引き続きスマホ向けを中心とした高精細マス  
クに注力

# 製品別概況

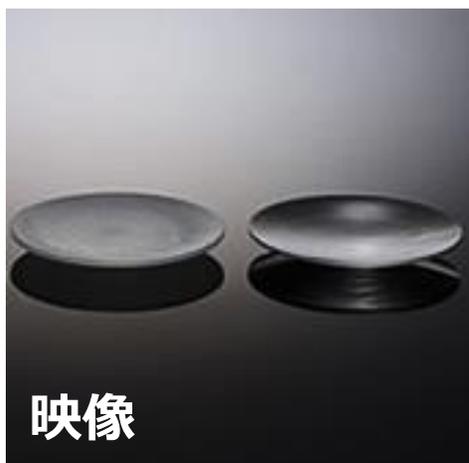


## 足元

2.5"はSSD要因とHDDの余剰在庫により減収。  
3.5"売上は倍増以上、ガラス基板売上の29%に

## 今後

2.5"は年率20%減少も、停滞中のデータセンターが本年後半に復調、年間での増収を目指す



## 足元

ミラーレス用レンズが好調に推移も、コンデジ市場の継続的な縮小などにより減収

## 今後

引き続き、新用途開拓と高付加価値化を推進

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況

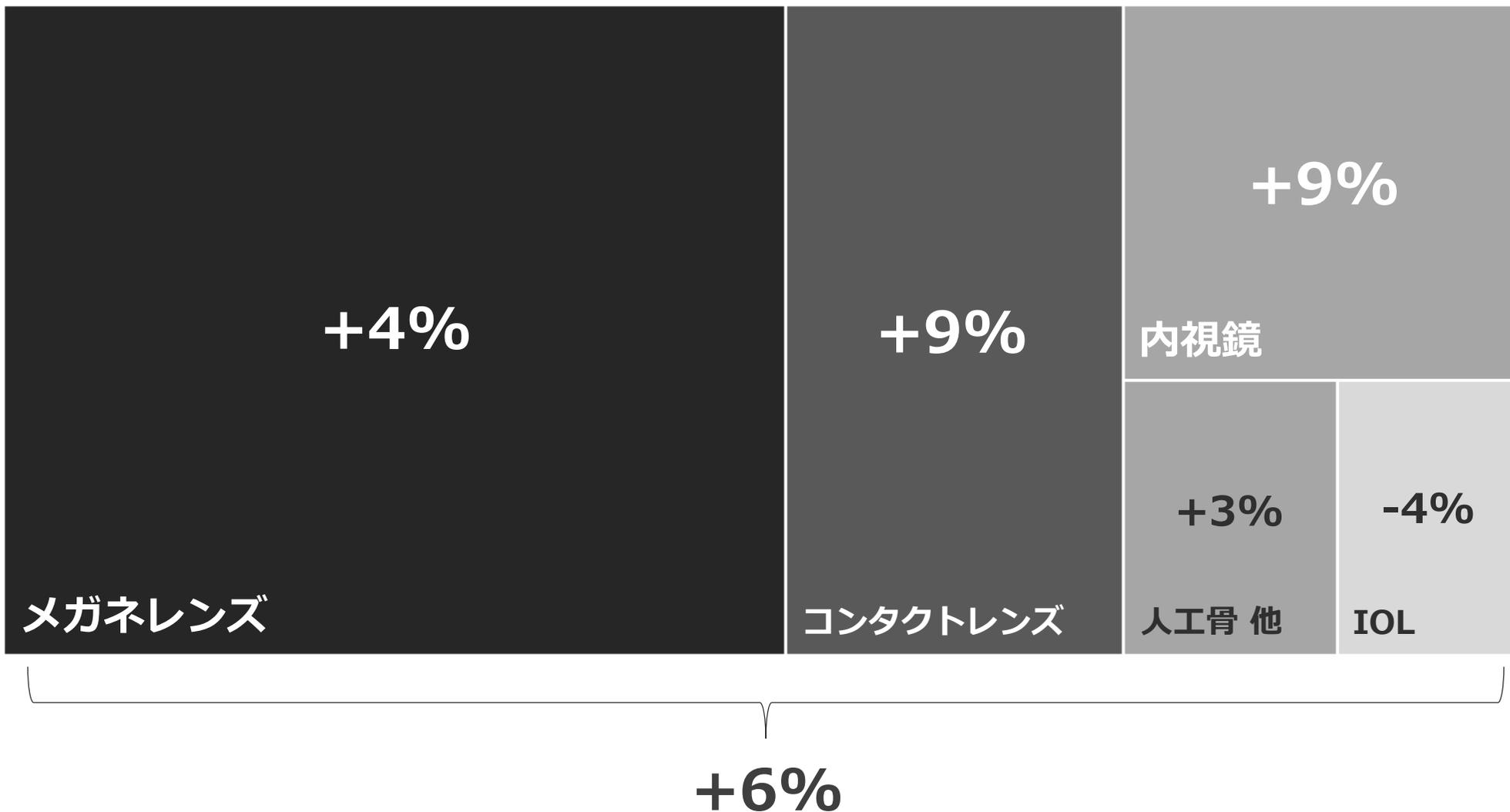
**3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**

4. 総括と今後の展望

5. 質疑応答

# ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



# 製品別概況



## 足元

価格下落の懸念があった欧州が安定的に推移するなど、全地域で総じて増収

## 今後

主に米州とAPACでのシェア拡大により成長を図る。現在17%のシェアを中期的に20%へ



## 足元

新規出店や高機能素材等の付加価値製品の販売促進による単価UPで増収。新規8/閉店2

## 今後

全国的に出店余地があるため、年間20店舗前後の出店やM&Aを計画

# 製品別概況



## 足元

中国の代理店での余剰在庫消化推進も、全体で減収。1月にMid Labs/Fritz Ruck買収完了

## 今後

余剰在庫の問題を早期解決し、成長軌道への復帰を目指す。買収した会社の統合を推進



## 足元

全地域で増収。新製品効果や欧州における大型案件の獲得等が貢献

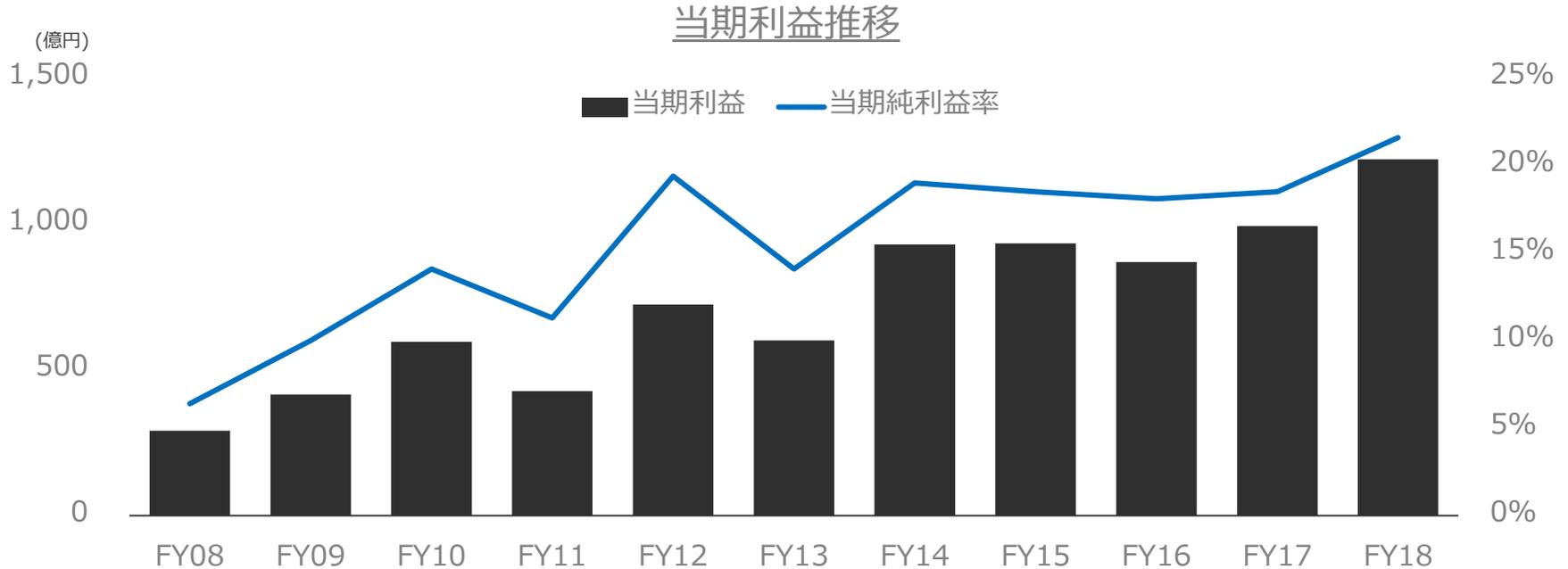
## 今後

新製品を継続投入。体制が整った米州、市場成長性の高いAPACを中心に拡大

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括と今後の展望 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

# 過去10年の振り返り

## 注力分野と成果



### 情報・通信のシェア拡大に尽力

- ✓ 業界内での圧倒的なポジションを確立すべく、差別化のための技術開発等に経営資源を投下

### ライフケアの成長投資に注力

- ✓ 利益を確保しながら売上を着実に成長させる構造作り
- ✓ 販売体制増強やM&A等で成長の土台

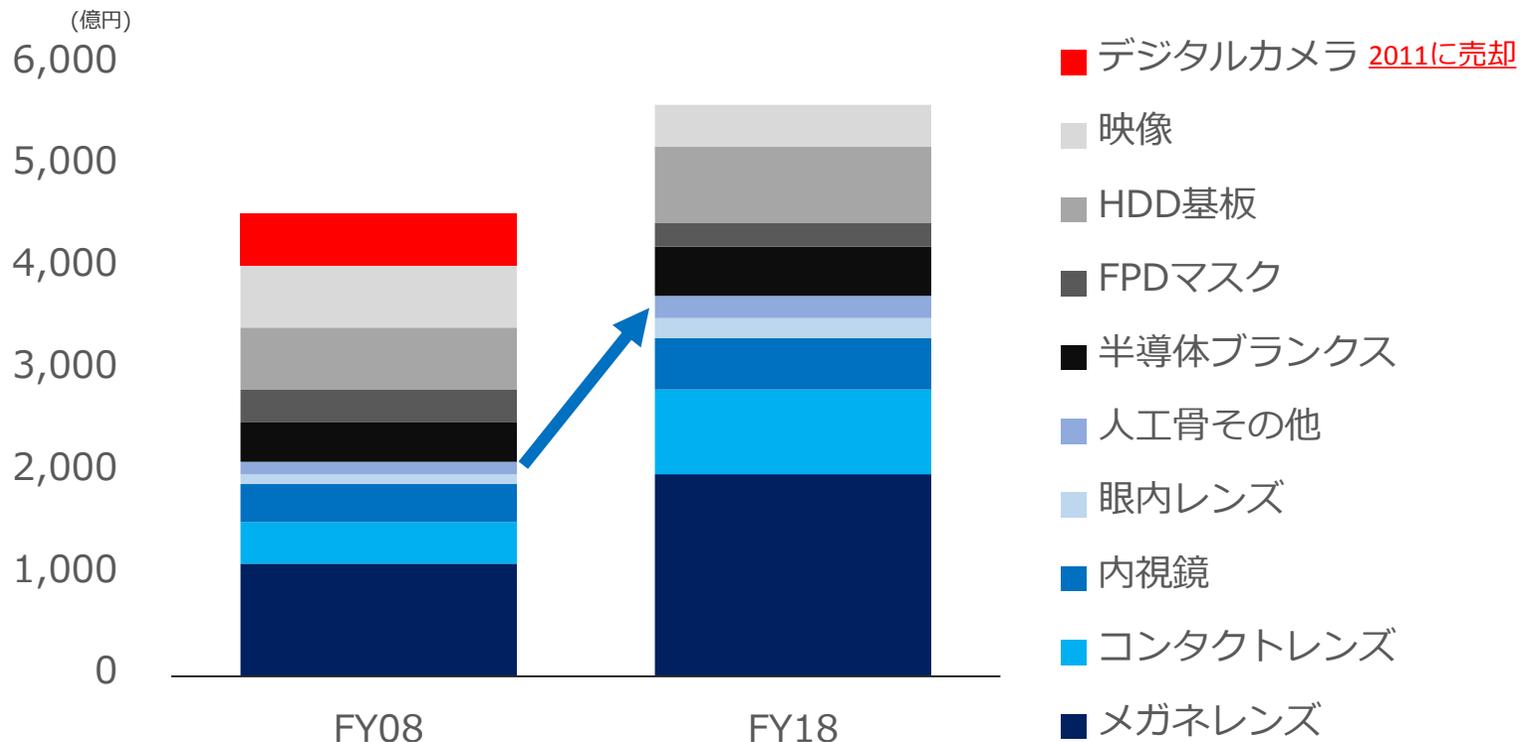
情報・通信の  
高シェア・高収益へと結実

# 過去10年の振り返り

## 事業ポートフォリオの変遷

- ✓ 2007年 内視鏡事業を買収、メディカル分野に本格参入
- ✓ 成長性やシナジーが乏しい事業から撤退
- ✓ 結果として、ライフケア（グラフ青系統）の構成比が46%から66%に

売上構成比 FY08 vs FY18



# 過去10年の振り返り

## 株主価値の最大化への取り組み

- ✓ FY08 取締役会において社外取締役が過半数となり、経営の緊張感と監督機能の実効性の点でブレイクスルー
- ✓ 資本コストを意識した株主重視の経営、積極的な株主還元を実施
- ✓ 時価総額は過去最高の水準に

## 取締役の人数の変遷

※青が社外取締役

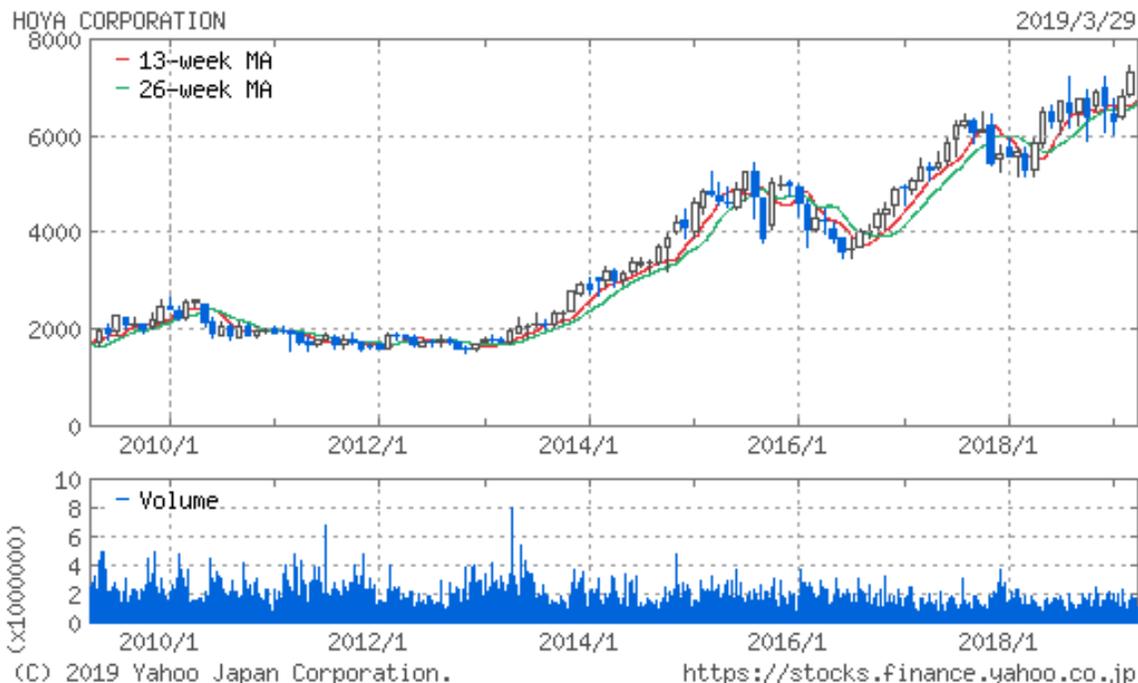
FY95 社外取締役制度を導入



FY08



FY18

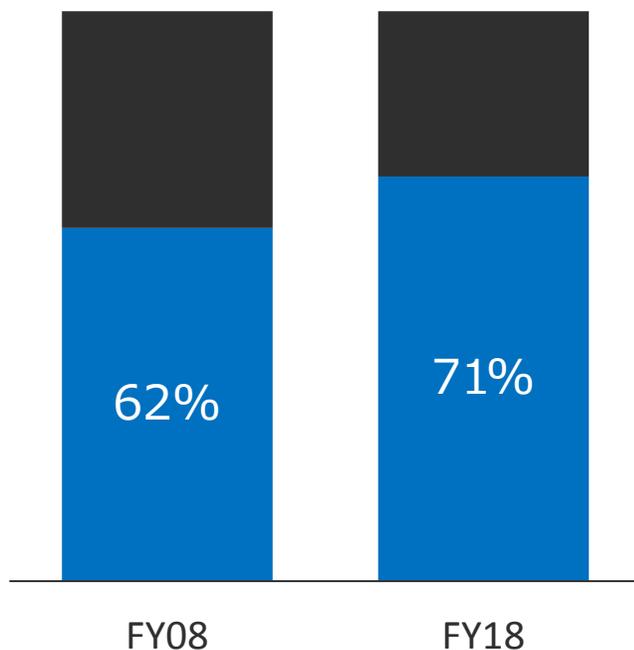


# 過去10年の振り返り

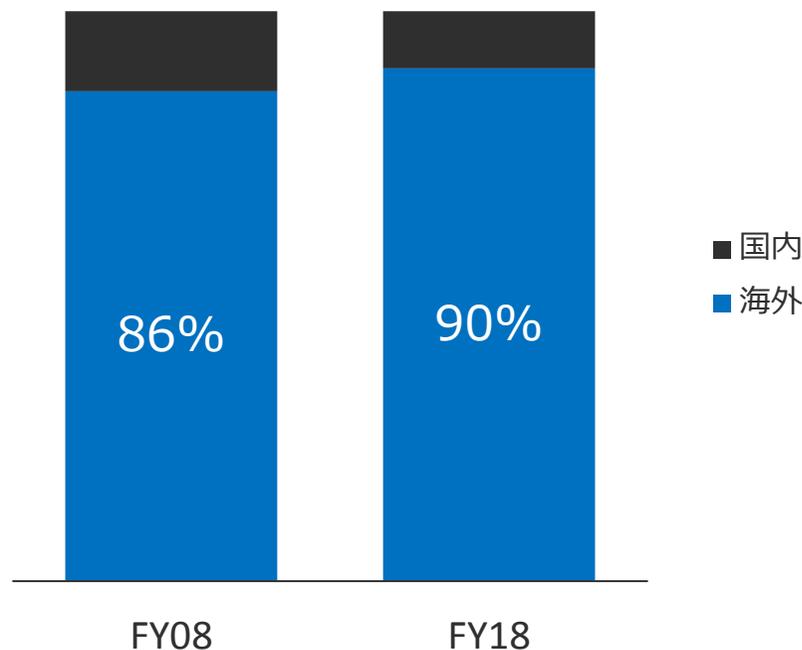
## グローバル化の推進

- ✓ 最適地 生産/販売/経営を推進
- ✓ 人材のグローバル化を進め、経営トップ現地化比率97%、外国籍の執行役も
- ✓ 「脱日本」や欧米展開の点では進んだが、新興国を含む多様な地域での競争力のある経営基盤の構築といった真のグローバル化は道半ば

海外売上比率



海外従業員比率



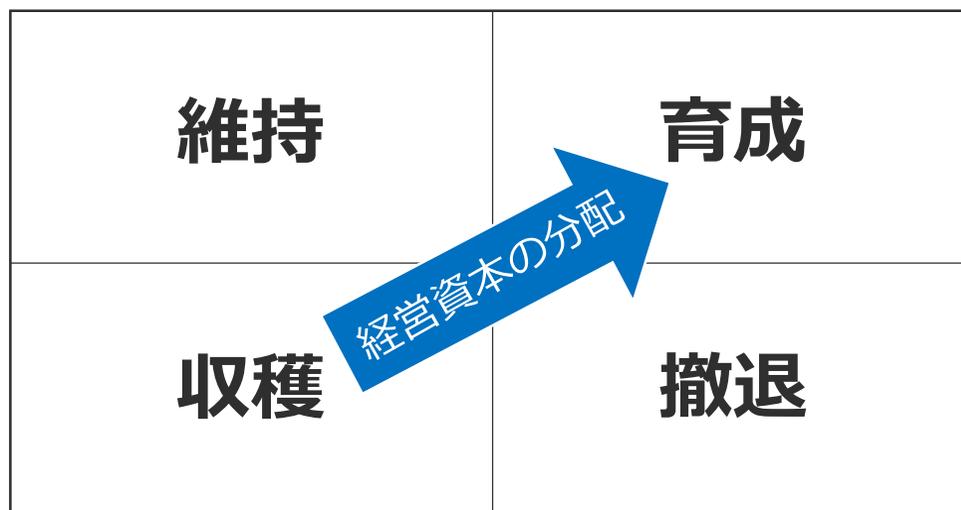
# HOYAの経営哲学

## 小さな池の大きな魚

創造と革新により、ニッチな市場におけるリーディングカンパニーを目指すこと

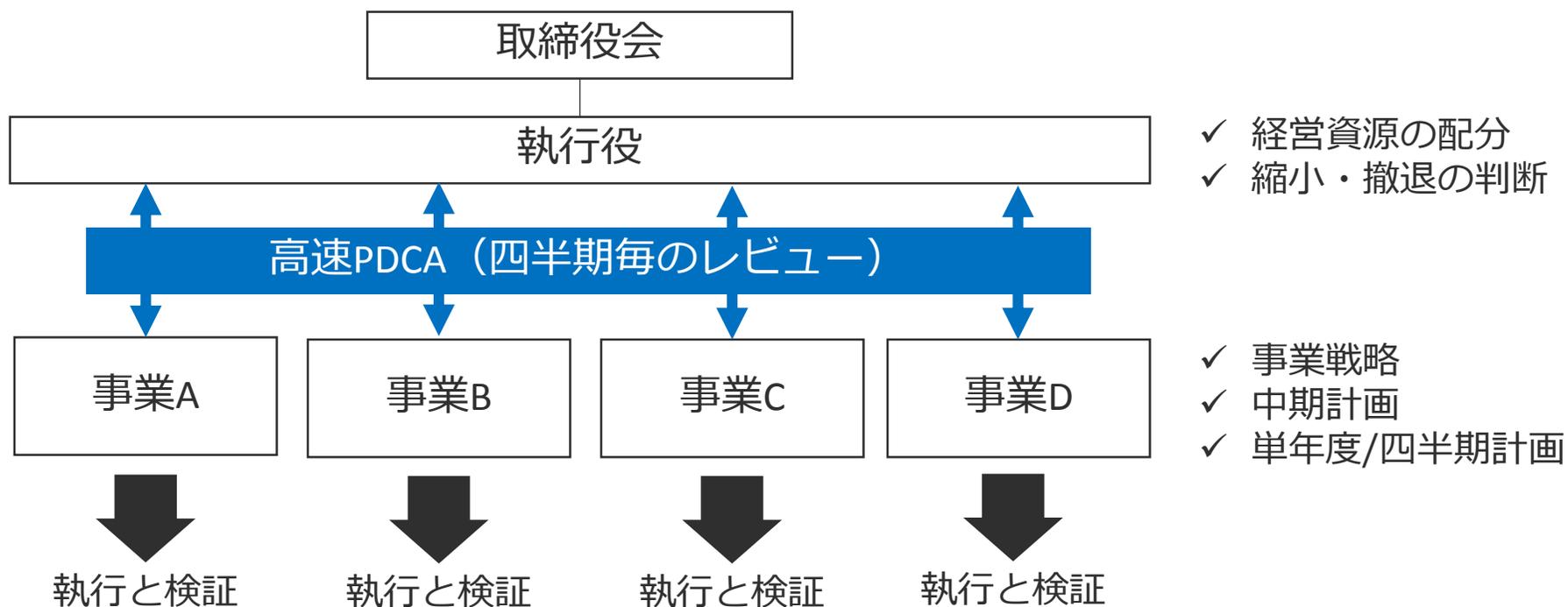
## 事業ポートフォリオ経営

- ✓ 事業が現状どのライフサイクルにあるかを見極め、より成長性の高い領域への経営資本を配分
- ✓ ビジネスモデルや景気感応度等が異なる事業の組み合わせによるリスク分散



# HOYA Management System

- ✓ 高速PDCA: 「長期的成長のために短期業績を犠牲にしてはならない」の考えから、四半期単位で各事業のレビューと改善検討
- ✓ Number Driven: 判断において財務上の数値が全て

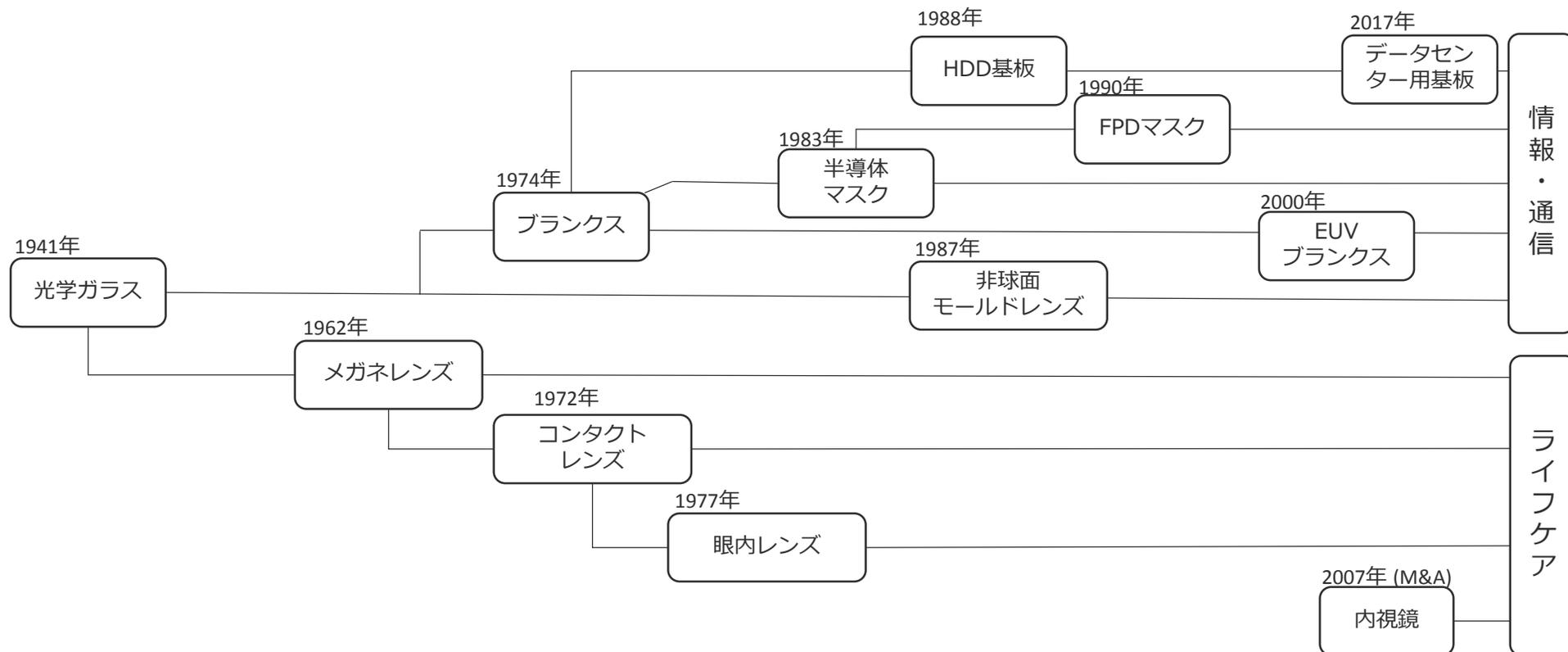


# 今後の10年間で取り組むこと

## 過去80年の変遷

光学技術を原点に技術とテーマのスコープを拡大

非連続的成長の点で、内視鏡の買収はHOYAにとって大きな転換点となった

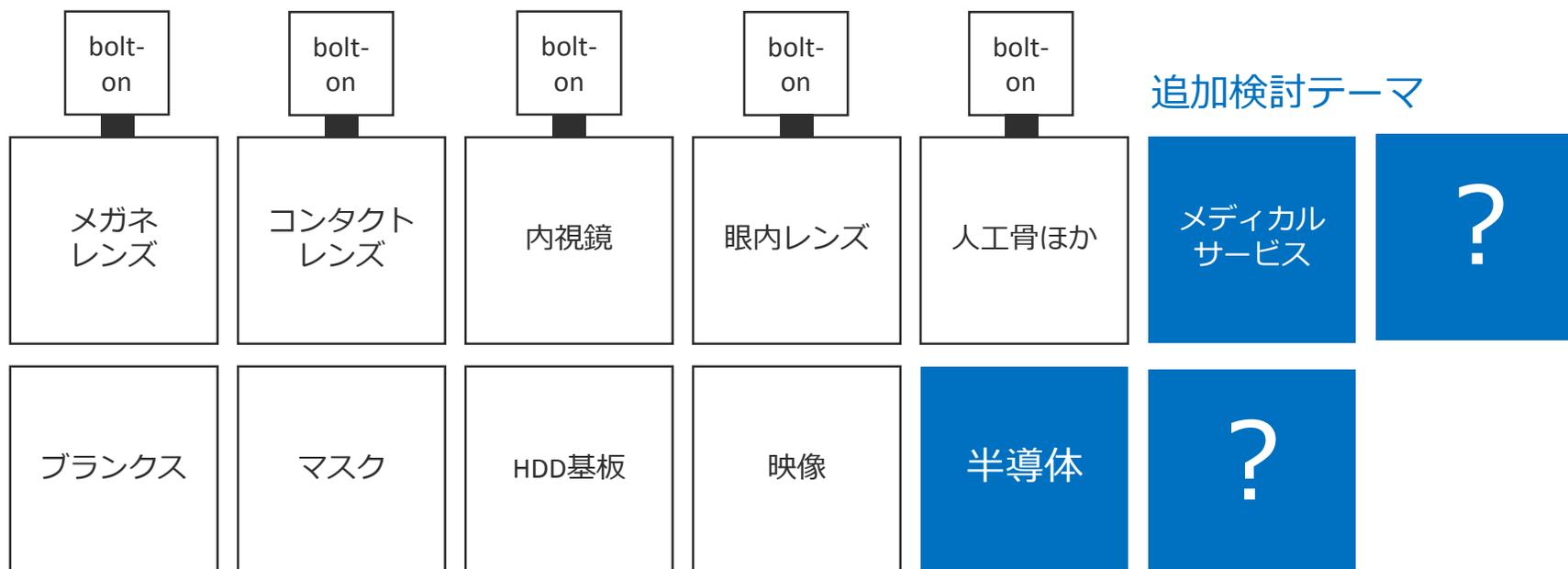


Core Technology	光学設計	組成	溶解	成型	研磨	成膜	微細加工
Theme	光学	生活	精密	ヘルスケア	医療		

# 今後の10年間で取り組むこと

## 事業ポートフォリオの変革

- ✓ 引き続きbolt-on（既存事業の機能補完的M&A）を進めながら、ポートフォリオ追加の大テーマとして「**メディカルサービス**」と「**半導体**」を検討
- ✓ 大テーマの中での「小さな池」を特定し、M&A/内部開発問わず事業機会を創出



# その他、注力していく事項

## ダイバーシティ

- ✓ ダイバーシティプロジェクト「みんなが活躍できる職場づくり」の一環として、女性の採用拡大と職域拡大に取り組んでいるほか、女性従業員を対象としたキャリアアップセミナーや、部門横断的な交流などを推進
- ✓ 国籍や人種のダイバーシティも引き続き推進
- ✓ 執行役/取締役のダイバーシティは今後の検討課題

## サクセッションプラン

- ✓ 次世代経営層の育成
- ✓ サクセッションプランの構築（社外取締役、指名委員会が推進）

# HOYAが目指す姿

---

- ✓ 時代が求めるビジネスを創出し続ける存在意義のある企業であること
- ✓ 企業価値の向上と社会・経済・文化への貢献が同一ベクトルにあること
- ✓ 企業価値の向上と利益還元により株主に貢献する企業であること

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括と今後の展望
- 5. 質疑応答**

# Appendix

# 連結業績（年間累計）

(億円)	FY17	FY18	YoY	YoY(%)
売上収益	5,356	5,658	+302	+6%
税引前利益	1,242	1,447	+204	+16%
当期利益	992	1,221	+229	+23%
cf. 通常の営業活動 からの利益	1,295	1,485	+190	+15%

売上収益、利益ともに過去最高を更新

# ライフケア事業 業績（年間累計）

(億円)	FY17	FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	3,529	3,734	+205	+6%
税引前利益	564	693	+128	+23%
cf.通常の営業活動 からの利益	636	742	+106	+17%
cf. 同利益率	18.0%	19.9%	+1.9pt	

\*外部売上の数値

# 情報・通信事業 業績（年間累計）

(億円)	FY17	FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	1,785	1,875	+91	+5%
税引前利益	700	806	+106	+15%
cf.通常の営業活動 からの利益	701	796	+95	+14%
cf. 同利益率	39.2%	42.4%	+3.2pt	

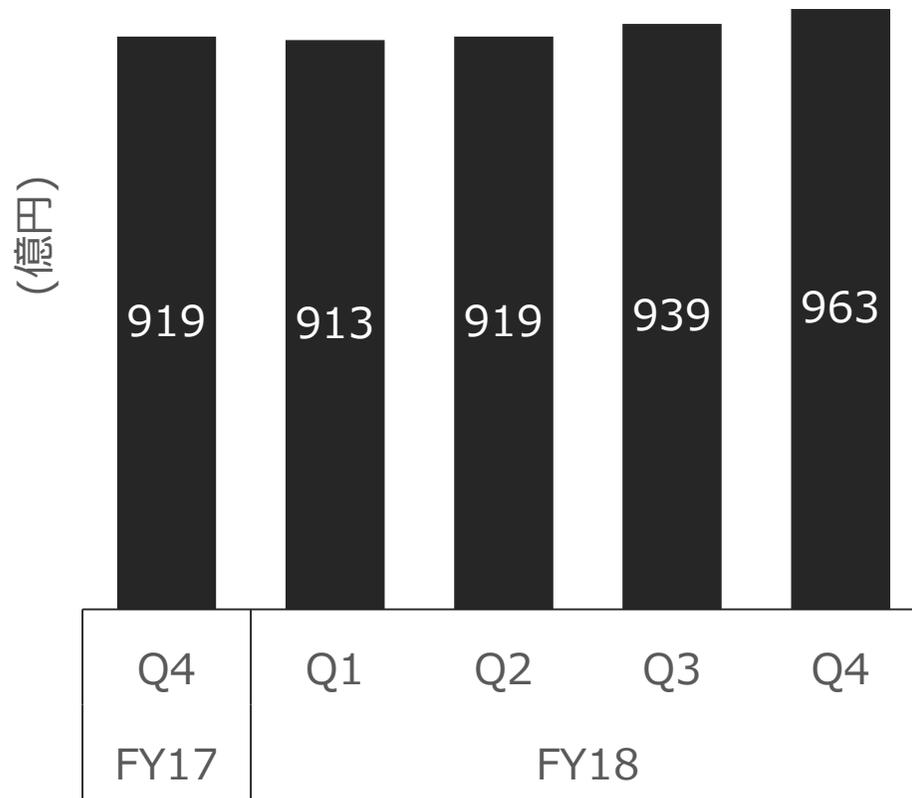
\*外部売上の数値

# キャッシュフロー計算書（年間累計）

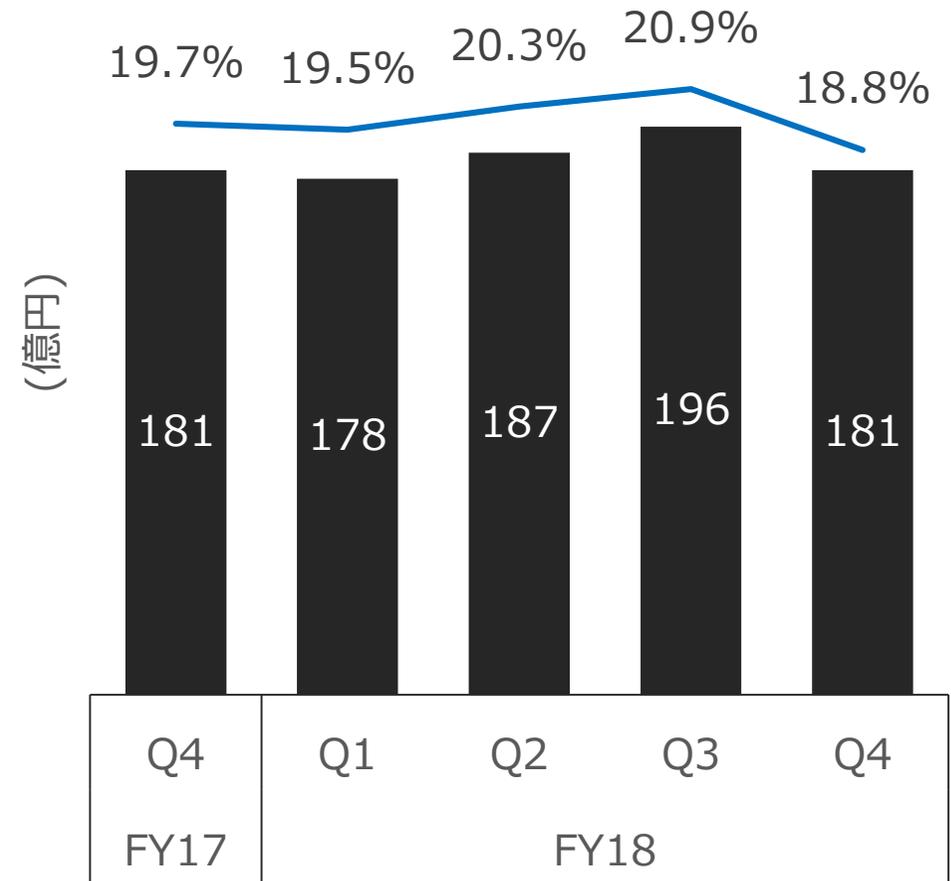
(億円)	FY17	FY18	YoY
営業活動によるCF	1,355	1,466	+111
投資活動によるCF	-685	-701	-16
財務活動によるCF	-1,173	-328	+845
現金及び現金同等物 期末残高	2,458	2,934	+476

# ライフケア事業 QoQ推移

## 売上収益



## cf. 通常の営業活動からの利益 / 率

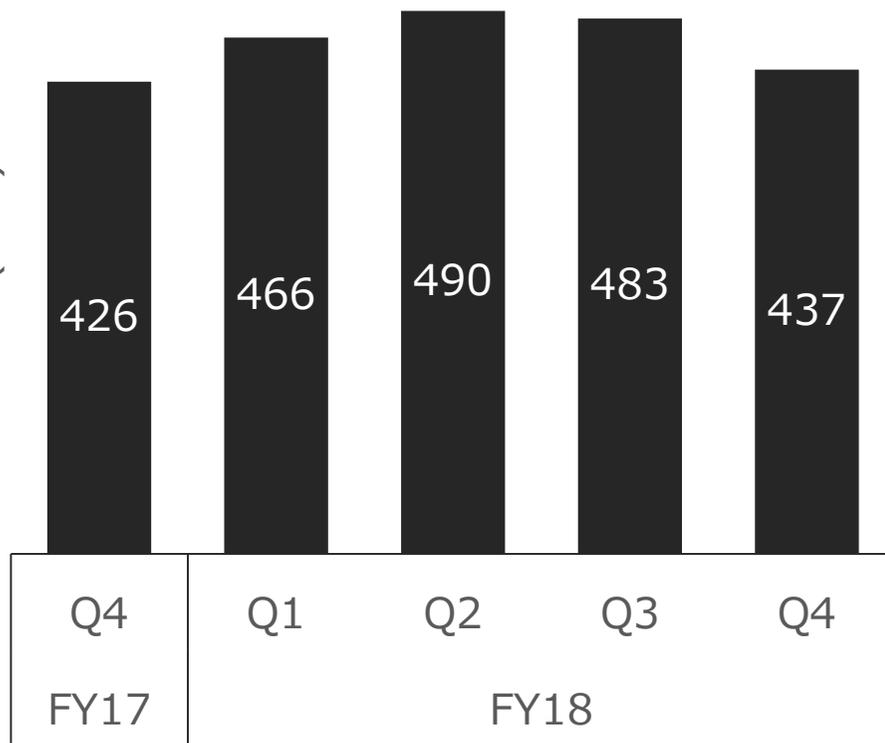


\*外部売上の数値

# 情報・通信事業 QoQ推移

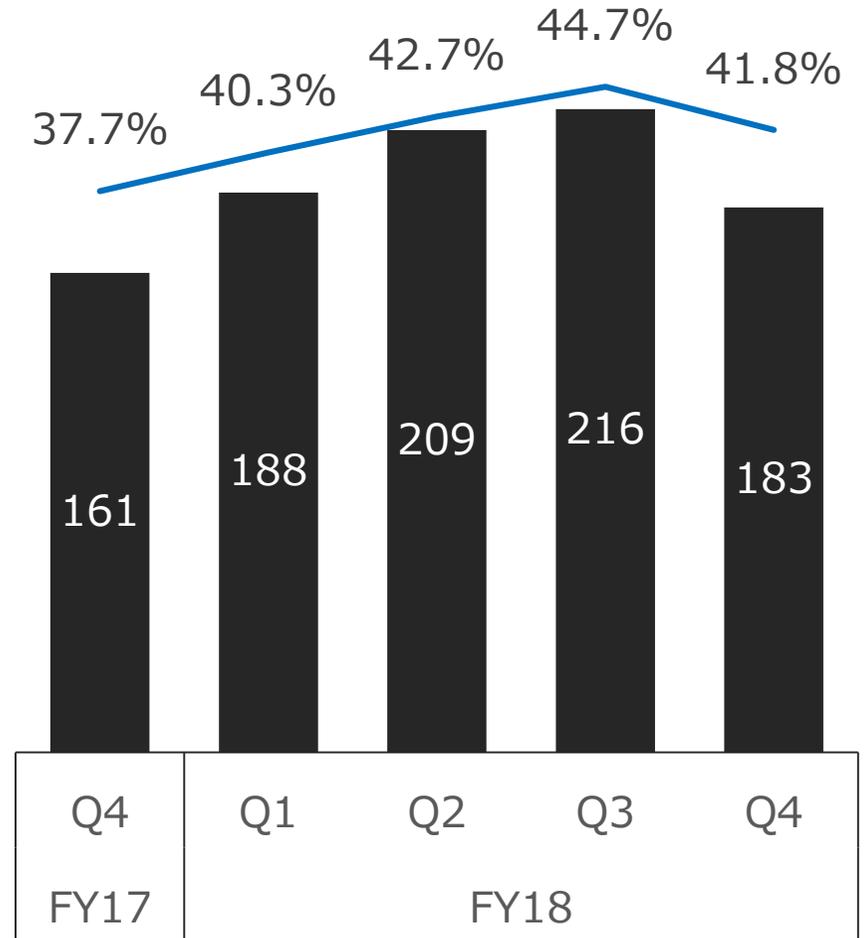
売上収益

(億円)



cf. 通常の営業活動からの利益 / 率

(%)



\*外部売上の数値

# Topics



[HDD基板] ラオス工場の建設開始

- ✓ 2019年2月、ラオスにてデータセンター向けHDD基板（3.5"）の新工場の地鎮祭を実施、建設が開始
- ✓ CY20上期中に稼働開始、CY21前半にはフル稼働を目指す



[メガネレンズ] ベトナム第2工場の建設開始

- ✓ 2019年1月に行われたベトナムの工業団地への新規進出企業に対するビジネスライセンスの授与式に出席
- ✓ ベトナムで2つ目となる工場の建設を開始、CY19末には操業開始予定

# 本資料の表記について

---

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2018年4月～2019年3月の会計期間を2019年3月期もしくはFY18と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q3, Q4, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。  
%は実際のコラ額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。

<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

# 免責事項

---

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。